

東京電力が4月15日午後5時、7号機に核燃料装荷を強行 怒りをこめて抗議し、直ちに中止するよう求めます

再稼働に前のめりの東電のやり方
順序が違うのではありませんか？

再稼働への地元同意もなく、能登半島地震の教訓をどう生かすかの検討もないまま、再稼働に必要な最終段階の検査のために東電は7号機原子炉への核燃料装荷を開始しました。872体の核燃料を搬入し終われば、あとは制御棒を抜くだけで原子炉を起動できる状態を作るといふことです。県民の十分な合意を得て再稼働が決まった段階で、核燃料を装荷し最終的な準備を始めるのが順序というものではないでしょうか。

装荷開始から数時間後にはエラー表示で作業を3時間中断。17日朝には制御棒装置のブレイカーが落ちて再び中断するなどトラブル続きです。施設・設備の経年劣化も懸念されている原発を稼働させることがいかに危険かを示しています。再稼働準備は直ちに中止すべきです。

福島第一原発の重大事故を起こした東電に、そもそも原発を運転する資格があるのでしょいか？

安全文化の欠如が厳しく問われている東電に、福島と同じ沸騰水型の原子炉である柏崎刈羽原発の運転を認めてよいのでしょうか。

福島事故への東電の責任の取り方は、原発から撤退し、再生可能エネルギー会社になまればかり、真にクリーンな電力会社を目指すことではないでしょうか。



地域を重大なリスクにさらす 原発の再稼働を許してはなりません 4月の11日行動で代表世話人小山さん訴える



東電の説明会、納得いかない

4月6日午後、リリックホールで東京電力の説明会がありました。多くの新潟県民が不安を抱いているなかで、原発再稼働のための説明会を開くとは無神経にもほどがあると言いたくなります。

多くの人々から次々と再稼働を懸念する質問や反対の意見が出され、参加者から同感の拍手が度々沸き起こりました。

東電の回答は「問題なし」が前提で全く納得のいくものではありませんでした。

「薄く広く電気料金に乗っければ、19兆円なんかすぐできる」

—2003年にある有力な保守政治家が発した言葉として、3月2日に放映されたETV特集の中で紹介されたもので、非常に衝撃的でした。九州大学教授だった吉岡斉さんが残した膨大な資料の中に、「19兆円の請求書」という文書がありました。技術やコストの問題から欧米の多くの国々が90年代に見切りをつけていた核燃料サイクル政策を、日本が国策として進めていることに疑問を持った若手官僚たちが書いたものです。原発稼働の後処理等に約19兆円を要すると指摘しています。上記の言葉はそれに対して推進派が語ったもの。

再稼働させる自治体に 通産省が40億円の交付金用意

柏崎市の商工会議所などが東電に再稼働を要請しましたが、経産省がチラつかせているカネに目がくらんで、地域を重大なリスクにさらす原発の再稼働を許してはなりません。

5月のアオーレ前宣伝行動は、5月11日(土)12時～12時30分です。ぜひご参加を！

原発ゼロ長岡市民ネットニュース
第145号 2024年4月22日発行

連絡先 広井洋子 長岡市寿2-5-15
電話・FAX 0258-24-2870
佐藤 090-4925-3707